

がん患者へ温かタオル帽子

盛岡二高で
講習会

盛岡

がん患者や家族を支援する岩手ホスピスの会（川守田裕司代表）は26日、盛岡市上ノ橋町の盛岡二高（鈴木広樹校長、生



作り方を教わり、真剣な表情でタオル帽子を縫う生徒

徒ら51人）で患者に贈るタオル帽子作りの講習会を開き、生徒が一針一針に思いを込めた。

同校家庭クラブ委員会のメンバーや希望者ら26人が参加。同会の吉島美樹子事務局長（61）が「通気性が良く丸洗いでき、好みのものが作れる」とタオル帽子の特長を伝えた。生徒は同会ボランティアの指導を受けながら、丁寧にタオルを手縫いした。

1年の村田秀美さんは「患者さんがかぶってくれると思うとうれしい。簡単に縫うことができるので家でも作ってみたいし、また活動に参加したい」と関心を高めた。

講習会は6回目。同会は2008年から、抗がん剤治療による脱毛に悩む患者のためタオル帽子の作製と病院への配布を行っている。作った帽子は岩手医大付属病院に贈る予定。

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。